

[附]

和名選定
委員会討議録
日本寄生虫学会用語委員会

寄生虫学会用語委員会委員長
佐藤 淳夫

はじめに

このたび日本寄生虫学会の”寄生虫和名表” [寄生虫学雑誌, 44(10), PP. 493-512, 1994.] が公刊された。平成2年の選定作業開始から5年間を費やしたことになる。この間、用語委員の方々、並びに会員の多くの方々からの御意見を頂き、公刊に至り得た事を深く感謝している。

一方で、学会としては過去にも数度にわたる和名選定が行われた歴史があり、其の際に行われた詳しい討議内容が残されていれば、今回の和名選定に甚だ有効であったろうことが痛感された。従って、今回の選定がほとんど白紙状態からの出発であった事を反省するとともに、今後の和名にかかわる諸問題のスムーズな解決に寄与出来る参考資料となることを期待して、本”委員会討議録”を作成する事を企画した。

幸いに、選定作業の当初から、ワープロ編集を行って、各委員、会員からの情報・意見を全てワープロ編集し、討議の資料として整備するとともに、意見の集約を図った経緯があるので、全討議内容を編集することは比較的容易であり、委員会でも”委員会討議録”の作成とその保管が支持された。

本”委員会討議録”が会員諸氏により大いに活用されることを心から期待している。

(平成7年5月記)

寄生虫学会用語委員 (平成7年8月)

神谷 正男	金田 良雅	木船 悌嗣	小林 昭夫
小島 莊明	佐藤 淳夫	鈴木 守	多田 功
高田 季久	塚本 増久	吉田 幸雄	

和名選定専門小委員

今井 壮一	影井 昇	町田 昌昭
-------	------	-------

[和名表] 作成の経緯、並びに [委員会討議録] の作成・保存について

平成元年(1989)4月の用語委員会において、[現在進行している用語の整理]作業のみならず、[和名の選定]も急務とする、との提案がなされた。この提案に対し用語委員会とは別に[和名統一委員会]を設定するのではなく、用語委員会が[和名選定]を行う方針が確認され、この用語委員会における確認事項は、学会幹事会に計られ、平成2年(1990)4月の第59回寄生虫学会総会(福岡)における用語委員会から正式の議題として取り上げられ、今回の和名の整理作業が開始された。

作業は、各用語委員が分担して、原虫、吸虫、条虫、線虫の収載すべき寄生虫種とその和名を申告し、リストアップしたものを、再び各委員に配布し、それに対して追加するもの、並びに和名についての意見などを数次にわたり討議がなされた。平成4年(1992)2月に[和名素案]が作成され、更に詳細な検討を要するとして、専門小委員会に付託することになった。

専門小委員会には、今井壯一、影井昇、町田昌昭(世話人:影井)の3氏を委嘱することが同年4月の第61回日本寄生虫学会総会(東京)において承認され、委員会の作成した[和名素案]についての検討を開始した。

小委員会では、選定の範囲(種名)の確定、その他の基本的な選定事項を設け、和名表の作成に着手した。少なくとも年1回、委員長を含めて学名・和名についての討議が行われ、更に年数回にわたり小委員会委員間での資料の送付による検討・意見交換を行い、その進行状況を毎年の総会時の用語委員会の討議資料として提出し、全委員からの意見を求めた。

平成6年(1994)4月の第63回日本寄生虫学会総会(秋田)における用語委員会の席上、2・3の問題点を残して、印刷についての委員会のコンセンサスが得られたことから、評議員会並びに幹事会に計って、問題点の訂正を行った後に、[和名表]として寄生虫学会雑誌に掲載される運びとなった。

寄生虫学雑誌44巻6号の本印刷には、[和名表]の他に、[選定メモ]の項目を設けて、学名・和名の選定の簡単な経緯を記したが、委員会としては、これまでの用語委員会並びに小委員会での論議の全内容を[委員会討議録]としてとりまとめ、今後寄生虫学会員が学名・和名についての疑問、問題点を抱いた場合に利用される必要性を考えた。

尚、本[委員会討議録]は、印刷公刊が出来ないので、[コピー製本]とし、
寄生虫学用語集：(寄生虫学雑誌，40(5)，pp.461-513，1991)
寄生虫和名表：(寄生虫学雑誌，44(6)，pp.493-512，1994)
の別刷と合本製本したものを、各用語委員と寄生虫学会事務局に配布し、会員の活用の便を計るとともに、国立科学博物館、目黒寄生虫館並びに予研病原微生物検出情報編集部の3ヶ所に所蔵をお願いした。

<< 原虫類 >>

Acanthamoeba castellanii (Douglas, 1930) Volkonsky, 1931 カステラーニア
アメーバ [新名
[カステラーニアアメーバ(高田)，カステラーニ棘アメーバ(塚本)，キャストラーニアアメーバ(遠藤)]

Acanthamoeba culbertsoni (Singh et Das, 1970) Sawyer et Griffin, 1975
カルバートソン アメーバ [新名
[カルバートソンアメーバ(塚本)，カルバートソン棘アメーバ(塚本)，カーバートソンアメーバ(遠藤)]
[Dasの後に更に name が続く筈，Das Gupta?の様に(木船)
[Das はそのままOK(今井)
[新称を付ける場合は出来るだけシンプルな方がよい(今井)
[無理に和名をつけなくてもよい(塚本)]

Acanthamoeba polyphaga (Puschkarew, 1913) Page, 1967 多食アメーバ
[新名
[多食アメーバ(塚本，木船)，ポリファーガアメーバ(高田)，

[ホ°リファージアメーバ (遠藤)
[形容詞は日本語に置き換えた方が良い(木船)
[新しい和名は出来るだけ仮名が良い(高田, 塚本)

◎ 属名 *Acanthamoeba* の読みは, [アcantアメーバ, アcanソアメーバ] が用いられているが, 委員会としては [アcantアメーバ] とする.

Babesia bigemina (Smith et Kilborne, 1893) Wenyon, 1926 和名ナシ
[ダニ熱ハベシア (今井)
[追加. もっとも代表的なウシのピロプラズマ原虫で, 世界的な分布が見られ, 我が国では沖縄県に存在し, ダニ熱の病原体となる.
[法定伝染病に指定されている. (今井)
[和名ナシがよい. (1993-5吉田)

Babesia bovis (Bab□s, 1888) Stracovici, 1893 和名ナシ
[ウシハベシア, ウシ脳ハベシアなどがあるが, 獣医関係で疑問あり.
[ウシには他にも数種が知られ, かつ本種が必ずしもウシのバベシアを代表するとは言えない. [脳]は本種寄生によって脳症状を起こす特徴があるため. (今井)
[和名ナシがよい (1993-5吉田)

Babesia divergens (M'Fadyean et Stockman, 1911) Rakovec, 1955 和名ナシ
[追加. 人体寄生 (自然感染例) あり. (今井)

Babesia microtia (Fran□a, 1910) Reichenow, 1929 ネズミバベシア
[*Babesia microtia*(宮田) ---->文法的には *microti* が正しい.
*microtia*を無視して良い. (木船)
[命名規約では文法と無関係に最初用いたものが優先する(塚本)
[原記載を確認して欲しい. *microtia*も文法的に間違いではない事にも気がついている. (木船)
[Fran□a による原記載は *microtia* である. 広く用いられている
[*B. microti* は Coles(1914) が Fran□a の原記載を引用せず, 新たに
[*Nuttalia microti* n. sp. として記載したものが distribute したものの.
[Reichenow の 1929年の Text には既に *B. (Nuttalia) microti* として記載されているので, 年号は 1929 が正しい. (今井)

Babesia ovata Minami et Ishihara, 1980 和名ナシ
[大型ヒ°ロ°ラスマ (今井)
[追加. 我が国の代表的なピロプラズマ原虫の一つで, 大型ピロプラズマ病の病原体として知られている. 沖縄県を除く全国各地に分布が見られる. (今井)
[和名ナシ がよい. (1993-5吉田)

Balantidium coli (Malmsten, 1857) Stein, 1863 大腸バランチジウム

Blastocystis hominis Malmsten, 1912 ヒト ブラストシスチス

Chilomastix mesnili (Wenyon, 1910) Alexeieff, 1912 メニール鞭毛虫

Cryptosporidium muris Tyzzer, 1907 ネズミ クリプトスポリジウム [新名
[新名(委員会)
[クリプトスポリジウムムリス(高田)---不賛成(木船)

Cryptosporidium parvum Tyzzer, 1912 小形クリプトスポリジウム [新名
[新名(木船)
[クリプトスポリジウムパ°ル°ム(高田)---不賛成(木船)

Dientamoeba fragilis Jepps et Dobell, 1918 二核アメーバ

Eimeria stiedae (Lindemann, 1865) Kisskalt et Hartmann, 1907 ウサギ
肝コクシジウム [新名]

[追加. 新名. 幼ウサギに極めて頻繁に見られるコクシジウム. これにより斃死する事もしばしば起こる. 実験動物用のウサギではコントロールされている事が多いが, ペットのウサギでは大抵本種の寄生が見られる.
(今井)]

Eimeria tenella (Railliet et Lucet, 1891) Fanthum, 1907 ニワトリ盲腸
コクシジウム [新名]

[追加. もっとも代表的且つ著名なコクシジウムで, 現在も世界各地の鶏に大きな被害を与えている. 研究ももっとも多く行われていて, *Eimeria* といえば本種を指すと言っても過言ではないほどである.
(今井)]

Endolimax nana (Wenyon et O'Conner, 1917) Brug, 1918 小形アメーバ

Entamoeba coli (Grassi, 1879) Casagrandi et Barbagallo, 1895 大腸
アメーバ

Entamoeba gingivalis (Gros, 1849) Brumpt, 1913 歯肉アメーバ
[歯齦アメーバの旧名アリ]

Entamoeba hartmanni von Prowazek, 1912 ハルトマン アメーバ

Entamoeba histolytica Schaudinn, 1903 赤痢アメーバ

Entamoeba polecki von Prowazek, 1912 ポレック アメーバ

Enteromonas hominis da Fonseca, 1915 ヒト エンテロモナス

Giardia intestinalis (Lambl, 1859) Alexeieff, 1914 ランブル鞭毛虫

[Synonym *G. duodenalis* (Davaine, 1875) Deschiens, 1921

[Synonym *G. lamblia* Stiles, 1921

[.....Giardiasis (Elsevier Pub.) Mayer edited (P.368) (Human Parasitic Diseases Vol.3) に*G. duodenalis* が用いてある.

[*G. intestinalis* を主とし, *G. lamblia*, *G. duodenalis* を併記する. (高田, 金田)

[*G. lamblia* は正式に記載された事はないので, 併記するには, []に入れて最後に廻す.(塚本, 木船) [現在の論文への使用状況から, 当分, *G. lamblia* を主体とし, (= *G. intestinalis*, = *G. duodenalis*) を併記するのがよいと思う, 数年後には, *G. duodenalis* となると思えますが, 決定は委員会に一任. (高田)

[*G. intestinalis* を排除して, *G. duodenalis* を用いる理由は? 人寄生の *Giardia* を *duodenalis* としてよいのか? さらに精査を.
(木船)

[*G. intestinalis* の和名は"ランブル鞭毛虫"とし, 別に (*G. lamblia* ランブル鞭毛虫) と括弧に入れて併記する. (小林)

[世界の学会は *G. intestinalis* を多用している. *G. lamblia* は正式に記載された名称ではない. (今井)

[海外テキストには, *intestinalis*, *duodenalis* の両者が用いられていて, 調べる程に混乱, 宮田 [寄生原生動物] の解説以上の詳しい情報は無い.

1992-6-13の委員会案の順序で synonym表示する. (1993-5今井)

◎ [高田季久(1992): ランブル鞭毛虫. 化学療法の領域,
Vol. 8, No. 5, 915-922]

Leeuwenhoek(1681): 最初の発見者. 自分の下痢便中に,
Dobelle(1932): Leeuwenhoekの手紙を発見, 自分の便から見いだした経過や, 記録を検討し, 本鞭毛虫の観察を確認し, 初発見者と確定したが, 命名は無い.

Lamble(1859): ヒト患者の下痢便から再発見,
Cercomonas intestinalis Lamble 1859 と,命名報告(初記載)
Davine(1875): ウキ^g小腸から見出したのを*Hexamita duodenalis*
Davaine, 1875 と,命名
Grassi(1879): マウス小腸からのものを *Dicercomonas muris* Grassi,
1879 と,命名.(ヤヤ小形のもの)
K^ostler(1882): オタマジャクシの一種からのものに, *Giardia agilis*
K^ostler, 1882 と,命名,

-----以上が1800年代の経緯-----

これらの内, 報告当時そのままの種名が今に用いられているのは
*G. agilis*のみで, 他のものはいずれも属名, 種名が既に他の原虫名
に用いられているので, まず属名が検討され, 最も古い
Giardia(K^ostler, 1882) が用いられた.

1900年代になり, 各種の動物から *Giardia*属の形態を備える虫体が
次々と発見され, それぞれの動物名を種名として命名された. 約40
種に達する.

ヒトのものは, 表記3種が用いられ混乱している. *G. lamblia* は主に米
国や我国で用いられ, *G. intestinalis* は欧州各国で用いられたが,
最近では, *G. duodenalis* を用いる学者が, 世界的に増加している.
G. lamblia は Lamble が命名した *C. intestinalis* がすでに他の原虫
に用いられているので, Stiles が1915年に, Lamble の名を種名と
するのが適当と考え, 私的に Kofoidらに提案し, Kofoidらが公表
したが, 正式な手続きを経たものでなく, 命名規約にそぐわないも
のである.

G. intestinalis も, 属名を変更したのみで, 種名とするのは不相当で
あり, 最も規約に合うのは, *G. duodenalis* であろうとゆうことで,
本学名を用いる学者が増加している.

我国では, 長く *G. lamblia* が用いられているので, 混乱を避けるため,
当分は *G. lamblia* を用い, 念のために
(=*G. intestinalis*, = *G. duodenalis*) を一度は併記する必要があるろう.
詳しくは, 下記などを参考にされたい.

1. Meyer(1990): Introduction "Human Parasitic Diseases,
Vol.3, Giardiasis". Myer, E. A. ed. Elsevier,
Amsterdam(1990), p1-9.

2. 宮田彬(1979): 寄生原虫生物学(上), 長大熱研, 長崎,
p411-423.

[もともとウキ^gから記載された*G. duodenalis* と, ヒトから得られた
*Giardia*とはそもそも同種なのかどうか? 疑問です. 研究者によっ
てはこの属はかなり宿主特異性が高いと考えられておるので, ウキ^gと
ヒトで異なる種の載出来ないことになる. 現在はこのあたりも曖昧と
思われ, 全くお手上げの状態です. 委員会原案の順序が最も適当と
思います. (1993-8今井)

Iodamoeba buetschlii (von Prowazek, 1911) Dobell, 1919 ヨードアメー
バ

Isospora belli Wenyon, 1923 戦争イソスポーラ

◎ [*Leishmania*属は従来, 属・種・亜種名を併記する習慣があったが,
1987年以来*Leishmania*, *Viannia* 亜属を設けて, 2命名法が採用
されたが, 今尚以前の命名法が用いられる事がある. (高田・橋
口)

Genus : *Leishmania* Ross, 1903

Subgenus : *Leishmania* Ross, 1903

or [*Leishmania* (Ross, 1903) Safjanova, 1982 ?]

Subgenus : *Viannia* Lainson et Shaw, 1987

◎ [Safjanova(1982) が亜属を初めて認めたとしても, 承名亜属の命
名者は自動的に属の命名者 Ross, 1903 が引用される筈(塚本)

◎ [本選定では, 2命名法を採るが, 亜属を(括弧)で示す. (委員会)

Leishmania (Leishmania) aethiopica Bray, Ashford et Bray, 1973 エチオ
ピア リーシュマニア [新名

[新名(高田)]

Leishmania (L.) amazonensis Lainson et Shaw, 1972 アマゾン リーシュマニア

Leishmania (L.) archibaldi Castellani et Charmers, 1919 アーチボルド
リーシュマニア [新名]

[新名(塚本)]

[Castellani et Mesnil, 1909 宮田, とあるが, ? (木船)]

Leishmania (L.) chagasi Cunha et Chagas, 1937 シャーガス リーシュマニア

Leishmania (L.) donovani (Laveran et Mesnil, 1903) Ross, 1903 ドノバン
リーシュマニア

Leishmania (L.) garnhami Scorza, Valera, Scorza, Carnivali, Moreno et
Lugo-Hernández, 1979 ガーナム リーシュマニア [新名]

[新名(高田)]

[カーナム リーシュマニア]

[カーナム リーシュマニア(鈴木, 木船, 高田)]

[Lugo-Hernández, 1979 とではないか? (塚本)]

Leishmania (L.) infantum Nicolle, 1909 幼児リーシュマニア [新名]

[新名, コトモリーシュマニア(塚本)]

[コトモリーシュマニアを撤回する(塚本)]

[コトモは動物名扱いか? (吉田)]

Leishmania (L.) major Yakimoff, 1915 大形リーシュマニア [新名]

[宮田は *Leishmania major* は本来 *L. tropica* の変異種とした. その場合は *L. tropica major* Yakimoff, 1915 となるが, 独立種とすれば, *L. major* (Yakimoff, 1915) Bray et al, 1973 となる. (影井)]

[この場合, *L. major* Yakimoff, 1915 でよい筈. Bray et al. 1973 により種に昇格されても, 属は変わっていないので, Bray et al. の付記は必要ない. (木船)]

[和名は, 大形(熱帯)リーシュマニアが良いのでは, 括弧は *L. tropica* の変異種と考えた場合(塚本)]

[大形リーシュマニア と (熱帯) は除いた方がよい. (木船)]

Leishmania (L.) mexicana Biagi, 1953 メキシコ リーシュマニア

Leishmania (L.) pifanoi Medina et Romero, 1959 ピファノ リーシュマニア [新名]

[新名 (塚本)]

Leishmania (L.) tropica (Wright, 1903) Løhe, 1906 熱帯リーシュマニア

[小形熱帯リーシュマニア(塚本, 高田)]

[小形熱帯リーシュマニアを撤回する(塚本)]

Leishmania (L.) venezuelensis Bonfante-Garrido, 1980 ベネズエラ
リーシュマニア

Leishmania (Viannia) braziliensis Vianna, 1911 ブラジル リーシュマニア

Leishmania (V.) guyanensis Floch, 1954 ガイアナ リーシュマニア [新名]

[和名はガイアナリーシュマニア, ギアナGuiana は複数の地域を指す地名.]

[コンサイス外国地名辞典による. (1993-5今井)]

Leishmania (V.) panamensis Lainson et Shaw, 1972 パナマ リーシュマニア

Leishmania (V.) peruviana Velez, 1913 ペルー リーシュマニア

Leucocytozoon caulleryi Mathis et Leger, 1909 ニワトリ ロイコチトゾーン
[追加. 我が国の動物にも発症が見られるもので, ニワトリマラリア原虫とは異なり, またヌカカが媒介者となり, メロゴニーがニワトリの血管内壁で行われる点で特徴がある. 病原性は強く, 第2次メロゴニー及びガモゴニーの時期に血管または血球を破壊する事により宿主に強い貧血を起こす (今井)]

Naegleria fowleri Carter, 1970 フォーラー ネグレリア [新名
[Nögler K.氏) (Fowler M.氏)
[フォーラー ネグレリア(鈴木, 高田)
[フォーラー-鞭毛アメーバ(塚本)
[鞭毛を付けるのは学生が混乱する, 反対したい (鈴木)
[「鞭毛」は疑問, 通常無鞭毛, 時に鞭毛あり(遠藤, 鈴木)
[「鞭毛」を省いても良い?(佐藤)
[通常無鞭毛であっても鞭毛を有する段階があり, アメーバ類と鞭毛類との進化上の関連を示すのに好都合な和名として鞭毛アメーバ属を用いるのがよいと思う(塚本)
◎ [人の名前は母国語発音で(塚本, 木船ら)]

Naegleria gruberi (Schardinger, 1899) Alexeieff, 1912 グルーバー ネグレリア [新名
[新名(高田)
[Nögler K.氏, Gruber A.氏
[カリュバー-鞭毛アメーバ(塚本)
[グルーベル-鞭毛アメーバ(高田)
[グルーベル ネグレリア (高田)
[カリュバー ネグレリア を採る(塚本, 鈴木)
[*Naegleria fowleri*を “脳炎アメーバ” とすると, 学生に理解し易いが脳炎を来すアメーバが他にもあり, 混乱する?(遠藤)
[症状を和名に加えるのはベストでない, 赤痢アメーバの様に定着したものは別(塚本)]

Pentatrichomonas hominis (Davaine, 1860) Wenrich, 1931 腸トリコモナス
[Synonym *Trichomonas hominis* Davaine, 1860 *T. hominis* は旧和名表で採用されていた.
[ヒト腸トリコモナス(吉田)]

Plasmodium berghei Vincke et Lips, 1948 和名ナ
[追加. 実験動物のマラリア原虫 (影井, 今井)
[和名を付けない方が? (吉田, 1993-5-25)
[吉田提案に賛成, 周囲の人々も同意見です. 理由は, ネグミマラリアには複数種有り, ネグミマラリア原虫と表記したときに, むしろ[どの種類か?]と迷う事になると思える (今井, 1993-6-14)
◎ *Plasmodium berghei berghei* Vincke et Lips, 1948
Plasmodium berghei nigeriensis Killick-Kendrick, 1973
P. berghei yoelii Landau et Killick-Kendric, 1966も
P. yoelii killick, Landau, Michel et Adam, 1968
に分ける向きもあるが, *P. bergehei* と *P. yoelii* を採用し亜種を除くのが穏当か?

Plasmodium cynomolgi Mayer, 1907 和名ナ
[追加. 人体寄生あり. (Schmidt et al, 1961; Coatney et al, 1961) (影井)]

Plasmodium falciparum (Welch, 1897) Schaudinn, 1902 熱帯熱マラリア原虫

Plasmodium inui Halberst \square dter et von Prowazek, 1907 和名ナ
[追加. 人体寄生あり. (Das Gupta, 1938) (影井)
[学名の括弧は不要の様です (1993-5今井)

Plasmodium knowlesi Sinton et Mulligan, 1932 和名ナ
[追加. 人体寄生あり. (影井, 今井)

Plasmodium malariae (Laveran, 1881) Grassi et Feletti, 1892 四日熱
マラリア原虫

Plasmodium ovale Stephens, 1922 卵形マラリア原虫

Plasmodium simium da Fonseca, 1951 和名ナ
[追加. 人体寄生あり. (今井)

Plasmodium vivax (Grassi et Feletti, 1890) Labb \square , 1899 三日熱マラリ
ア原虫

Plasmodium yoelii Landau et Killick-Kendrick, 1966 和名ナ

Pneumocystis carinii Delano \square et Delano \square , 1912 ニューモシスチス [新
名

[新名 委員会提案
[ニューモシスチス カニ
[カリニ肺胞嚢虫, 以前(横川・森下・横川)に使用アリ(木船)
[最近の分子生物学的研究から”原虫でない”との見解が強いので,
近い将来これを含まなくなる可能性が大きい. (塚本, 吉田)
[単に ニューモシスチス とするか, カニ肺嚢虫とする. (木船)
[別種が出現するまで ニューモシスチス のみでよい. (高田)

◎ [学名のままのカナ書きでは和名とは言えないとも考える. (木船)

Retortamonas intestinalis (Wenyon et O'Conner, 1917) Wenrich, 1932
腸レトルタモナス

[Synonym *Embadomonas intestinalis* Wenyon et O'Conner, 1917
[*Embadomonas intesutinalis* (腸エンバト \square モナス) の学名並びに和名で所
載された原虫は, *Retortamonas*属に編入された.

Sarcocystis hominis (Railliet et Lucet, 1891) Dubey, 1976 ヒト肉胞子虫
[Synonym *Iso spor a hominis* Railliet et Lucet, 1891
[*Iso spor a hominis* (ヒトイソ \square ラ) の学名並びに和名で所載された原虫
は現在は牛を中間宿主とする *Sarcocystis hominis* (ヒト肉胞子虫)
のイソ \square ラであることが判明し, *I. hominis* はその synonym であ
るとされた.

Sarcocystis lindemanni (Lindemann, 1868) Rivolta, 1878 リンデマン肉
胞子虫

Sarcocystis sui hominis (Tadros et Laarman, 1976) Hydron, 1977 ブタ肉
胞子虫

◎ [*Sarcocystis*属には, 古く (s. 17委員会) 住肉胞子虫もある.

Theileria sergenti Yakimoff et Dekhtereff, 1930 和名ナ
[小型ヒ \square ロ \square ラズマ (今井)

[追加. 我が国のウシに寄生するピロプラズマの中では最も重要なも
ので, 現在も多くの発症例がある. 本属の原虫はヒトに寄生する
ものは知られていないが, ウシでは世界的に被害が多い重要な病
原虫となっている (今井)
[和名ナ がよい (1993吉田)

Toxoplasma gondii (Nicolle et Manceaux, 1908) Nicolle et Manceaux, 1909
トキソプラズマ [新名]

[委員会提案]

[トキソプラズマ(金田, 吉田, 木船)]

[ゴンドイ トキソプラズマ(多田) ---不賛成(木船)]

[現在1属1種(佐藤, 木船, 高田)]

[ヒト寄生は1種だが, 魚類? 両生類のトキソプラズマの新種が記載された筈,
J. Protozool. 3年前位?(塚本)]

◎ [将来の新参種に”○○トキソプラズマ”と命名する。(木船)]

Trichomonas tenax (Müller, 1773) Dobell, 1939 口腔トリコモナス

Trichomonas vaginalis Donn, 1837 膣トリコモナス

Tritrichomonas foetus (Reidmüller, 1928) Wenrich et Emmerson, 1933

ウシ胎仔トリコモナス

[ウシ流産トリコモナスも用いられているが?]

[追加. ウシの生殖器に寄生するトリコモナスで, 我が国では現在ほとんど被害は無いが, 発症牛では流産, 不妊等病害は強く, また消化管以外に寄生するトリコモナスとして獣医学の教科書には必ず登場する種類である。(今井)]

[和名は, ウシ胎仔トリコモナスが多く, [ウシ] が無く(胎仔トリコモナス)とするものもあるが, ヒトのものと誤解されぬよう(ウシ)を入れる。(1993-5今井)]

[胎仔の読み方は? 胎児ではないか?(1993-5吉田)]

[常に, 胎仔が用いられている。(1993-5今井)]

Trypanosoma brucei brucei Plimmer et Bradford, 1899 ブルース トリパノソーマ

Trypanosoma brucei gambiense Dutton, 1902 ガンビア トリパノソーマ

Trypanosoma brucei rhodesiense Stephens et Fantham, 1910 ロードシア トリパノソーマ

Trypanosoma cruzi Chagas, 1909 クルーズ トリパノソーマ

[クルーズ トリパノソーマ(森下委員会1963)]

[クルーズ トリパノソーマ, Dr. Oswald Cruz はポルトガル語圏の人でクルーズと発音(鈴木, 多田, 高田, 吉田)]

[ブラジルでは母音のない z もズと, 濁る筈]

[Cruzは brazilian, (塚本)]

[クルズか, クルーズか, 現地での発音は?(木船)]

Trypanosoma rangeli Tójer, 1920 ランゲル トリパノソーマ

~~~~ 以上 原虫類, 71種 ~~~~

◎ [付記]

[委員会に収載を提案したが, 今回の和名表に採用されなかったもの, 8種. 次期の改訂の折りに追加する.]

*Babesia canis* (Piana et Calli-Valerio, 1895) Wenyon, 1926 イヌバベシア  
新称・追加, 犬に存在する2種の *Babesia* のうち, 病原性が強いと考えられる方, 沖縄. [今井, 1992-10-30]

*Babesia gibsoni* (Piana et Calli-Valerio, 1895) Wenyon, 1926 キブツノイヌバベシア

[新称・追加, 犬のバベシアの病原性の弱い方, 関東以西[今井, 1992-10-30]

*Histomonas meleagridis* (Smith, 1896) Tyzzer, 1920 ヒストモナス  
[追加, 1属1種, シチメンチョウ, クジヤク, ニワトリ で特異的生活環を有する. [今井, 1992-10-30]

*Ichthyophthirius multifiliis* Fouquet, 1876 白点虫  
[追加, 淡水魚の白点病の原因虫. [今井, 1992-10-20]

*Isospora canis* Nemeseri, 1959 イヌイソスポーラ  
[新称・追加, 犬に普通. [今井, 1992-10-20]

*Isospora felis* Wenyon, 1923 ネコイソスポーラ  
[新称・追加, 猫に普通. [今井, 1992-10-20]

*Nosema bombyis* Naegeli, 1857 カイコノゼマ  
[新称・追加, 近年我が国ではあまり [今井, 1992-10-20]

*Trichomonas gallinae* (Rivolta, 1878) Stabler, 1938 ハトリコモナス  
[追加, 病原性が強い.

### << 吸虫類 >>

*Clinostomum complanatum* (Rudolphi, 1814) Braun, 1900 和名ナシ  
[追加. 人体寄生例あり (影井)

*Clonorchis sinensis* (Cobbold, 1875) Looss, 1907 肝吸虫

*Dicrocoelium dendriticum* (Rudolphi, 1818) Looss, 1899 槍形吸虫  
[s5委員会では「槍形吸虫」は *D. lanceolatum* の和名, *D. dendriticum* の和名は「樹枝状吸虫」 (影井)

*Echinochasmus perfoliatus* (Ratz, 1908) Dietz, 1910 和名ナシ

*Echinochasmus japonicus* Tanabe, 1926 和名ナシ  
[上記の2種は日本の人体寄生例あり, 収録を?. 和名は無い (吉田)  
[収録することに賛成, 和名も試案を(木船)  
[包茎葉口吸虫として, (安藤, 1939, 日新医学28:173) にあり (塚本)  
[ただし, 和名と学名の関連が無く, 和名ナシとする. (影井)

*Echinostoma cinetorchis* Ando et Ozaki, 1923 移峯棘口吸虫(イロキョクコウキョウチュウ)

*Echinostoma hortense* Asada, 1926 浅田棘口吸虫

*Echinostoma ilocanum* (Garrison, 1908) Odhner 1991 イロコス棘口吸虫  
[追加. 教科書にも出て来る人体寄生虫(影井)  
[s5委員会, イロコス吸虫

*Echinostoma macrorchis* Ando et Ozaki, 1923 巨峯棘口吸虫(キョウキョクコウキョウチュウ)

[s5委員会では, 大峯吸虫

*Eurytrema pancreaticum* (Janson, 1889) Looss, 1907 隣蛭(スイテツ)  
[Beaverら, Clin. Parasit. では(Janson, 1899) となっているが, 1889が正しい. (1993-5吉田)

*Fasciola gigantica* Cobbold, 1856 巨大肝蛭(キョウダカンテツ)

*Fasciola hepatica* Linnaeus, 1758 肝蛭(カンテツ)

*Fasciolopsis buski* (Lankester, 1857) Odhner, 1902 肥大吸虫

- Fibricola seoulensis* Seo, Rim et Lee, 1966 和名ナシ  
 [追加. 人体寄生例あり(韓国, Seo, 1990)(影井)  
 Seo, B.S. (1990): *Fibricola seoulensis* Seo, Rim and Lee, 1964 (Trematoda) and Fibricoliasis in man. Seoul J. Med., 31(2), 61-96.
- Gastrodiscoides hominis* (Lewis et MacConnel, 1876) Leiper, 1913.  
 和名ナシ  
 [追加. 最初の委員会(s.5)で”腹盤吸虫(影井)  
 [腹盤吸虫(S.5仮案)があり, 学名に基づいたものであるが, ほとんど使用されていないので和名ナシとした.
- Gigantobilharzia sturniae* (Tanabe, 1948) Hunter, Ritchie et Tanabe, 1951  
 ムクドリ住血吸虫  
 [椋鳥住血吸虫  
 [ムク鳥住血吸虫(教科書アリ)  
 [ムクドリ住血吸虫(佐藤, 木船, 吉田)  
 [Hunter, G. W., Riche, L. S. and Tanabe, H. (1951): The epidemiology of schistosome dermatitis (“Koganbyo”) in Japan. Trans. R Soc. Trop. Med. Hyg., 45, 102-112.
- Heterophyes heterophyes* (von Siebold, 1852) Stiles et Hassall, 異形吸虫  
 [森下委員会(1963)では シーボルト異型吸虫 (吉田)
- Heterophyes heterophyes nocens* Onji et Nishio, 1915 有害異形吸虫
- Heterophyes katuradai* Ozaki et Asada, 1925 桂田吸虫  
 [s5委員会, 桂田吸虫
- Heterophyopsis continua* (Onji et Nishio, 1916) Price, 1940 和名ナシ  
 [人体寄生あり. Yamaguti(1971), 但し出所不明 (町田)
- Metagonimus takahashii* Suzuki in Takahashi, 1929 高橋吸虫  
 [Suzuki in Takahashi, 1929 とすべき. 命名規約51, 勧告51B 参照  
 [岡山医誌, 41(12):2711 にあり. (塚本)  
 [伊藤次郎からの意見(書信)には, (メタゴニムス及びその他の異形吸虫類, 日本における寄生虫学の研究, 目黒寄生虫館, 1916) や(宮崎一郎・藤幸治: 図説人畜寄生虫症, 九州出版会, 1988) では, ”高橋(1929)の横川吸虫に関する論文で大卵型メタゴニムス, と報告したものを, 鈴木(1930)が *M. y. var takahashii* としたものである” とるので, 鈴木(1930)とするのは納得出来るが, これらの総論や書籍の中の文献には全く鈴木の名前は上がってこない. 斉藤奨(1984)の(*Metagonimus*属吸虫における種の異同について, 寄生虫分類形態談話会会報(2), 1-4)に鈴木稔(1930)の論文名を見つけた. しかし, この論文名は(横川めたごにむす, 岡山県下に産する特殊動物並びに害動物に関する研究論文目録, 岡山県編纂, 146-148)とあり, ここで新種記載がなされているとは思えない. 従って, Suzuki in Takahashi, 1929となるのか? と, あった. この論文をまだ見ていないので, 取り寄せて再検討したい. 高橋昌造(1929): *Metagonimus yokogawai*, *Metagonimus* の1新種および *Exorchis major* の発育について, 岡山医学会誌, 41, 2687-2755. (1993-5影井)  
 [Metagonimus属の研究者は皆頭を痛めたものと思います. 正式な新種記載の形式をとった論文が無い. *Metagonimus takahashii* の学名が最初に文献で見られるのは, 例の高橋(1929)で岡山医学会雑誌, 41(12):2687-2755の2717頁に [大卵型メタゴニムスに対し, 鈴木教授は学名として, これに附する *Metagonimus takahashii* を以てす] と記しており, 翌年(1930), 鈴木が *Metagonimus takahashii* nov. sec. と初めて命名の形を取っている. しかし記載の詳細と学

名は既に高橋により行われているので、*Metagonimus takahashii* in Takahashi, 1929 が最も妥当なのかも知れません。ちなみに、S. Yamaguti: Synopsis of Digenetic Trematodes of vertebrates にはこの学名が用いられている。私は、命名規約には自信がないので、ご検討下さい。(1993-5齊藤奨)

[鈴木稔(1930)は「めたごにむすの1新種(p154-158)の項で「3. 本吸虫に対する批判」という項目で本虫が成虫の形態、セルリアの形態、第二中間宿主が異となる事から、*M. takahashii* nov. spce. とすべきであると述べている。

ちなみに Yamaguti(1961) は Systema Helminthum で、*Metgkni us takahashii* Takahasi, 1929 Syn. *M. yokogawai* of large-egged form とし、後(1971)の Synopsis of Digenetic Trematodes of Vertebrates では、*M. tkahashii* in Takahashi, 1929 としているが、この最後の表現は納得できない。日本語であるが、高橋(1929)が本虫「高橋吸虫」の虫卵の大きさ、虫体の形態その他は横川吸虫とは異となることを論述しており、その内容を受けた鈴木(1930)が正式に(これも日本語) *M. takahashii* の学名を与えたので、私は、*Metagonimus takahashii* (Takahashi, 1929) Suzuki, 1930 Syn. *M. yokogawai* of large-egged form とするのがいちばん妥当かと思う。(1993-5影井)

[結論は、塚本先生の意見が正しい。命名規約、51条に規定された命名者名の引用の項とそれに付随した勧告51Bにある命名責任者の名前の取扱い方法に従えば *Metagonimus takahashii* Suzuki in Takahashi, 1929 となる。*Metagonimus takahashii* という学名が初めて登場するのは、よく知られているとおり、高橋(1929)の論文で、模式標本の指定や、n. sp. の記号こそ無いが、十分な記載を伴っている。よしんば模式標本を指定しなくても、記載があつてそれにより種の実体が把握できる上に新種名が明記して有れば、n. sp. の記号が無くても、また、著者の真意がどうであれ、それが自動的に原記載となり無効名として処理出来ない。

学名の場合に命名者名や年号の引用は任意(optional)なので、年号にこだわらなければ、*Metagonimus takahashii* Suzuki で事足りる。なまじ、年号をつけようとするために [*Metagonimus takahashii* という名前を最初に提唱した Suzuki (1929) の論文等はないので]、in Takahashi というのを付ける事になる。

このような混乱を引き起こした原因は、1) 鈴木教授がきちんと正式の命名・記載発表をする前に、新種名(案)を高橋氏に提示し、2) その名称を高橋氏が最初に記載を伴った自著論文中に明記したこと、さらに 3) それより遅れて翌年鈴木(1930)がその報告書で「上記の高橋(1929)の論文を参考文献中に引用していながら」*Metagonimus takahashii* nov. spec. と表現した事にある。

しかし、いったん公表された種名は、他に不適格なところが無ければ、有効である。したがって(日)一年早く印刷・公表された高橋(1929)の論文中の *Metagonimus takahashii* に先取権があることになる。しかし、その中で、*takahashii* の真の命名者が鈴木教授である事は明記されている。

これらのことをふまえた上で、本種の場合、準拠すべき規約の勧告 51B の全文は次の通りである。

Recommendation 51B. Citation of the responsible author.  
--If a scientific name and the conditions other than publication that make it available [Arts 10 to 20] are the responsibility not of the author of the publication containing them, but of some other person(s), or of less than all of joint authors, the authorship of the name, if cited, should be stated as "B in A", or "B in A & B", or whatever combination is appropriate.

最後の whatever combination is appropriate というのは、例えば、"A & C in A & B" とか "A, B & D in A, B, & C" といったケースでも OK だという事です。

従って、高橋吸虫の学名を年号まで含めて全記する場合には、塚本先生の意見通り、*Metagonimus takahashii* Suzuki in Takahashi, 1929 とする以外にはありません。Yamaguti(1971)で *Metagonimus takahashii* in Takahashi, 1929 となっているのは、何か勘違いをしたと思われる。明かなミスと判断される。

尚、斉藤氏の御意見はもっともで、旧規約（いわば初版に相当する分）では、真の命名者が誰であれ、新種名を含んだ論文の著者が否応なしに命名者とみなされかねなかったのですが、（したがってこの場合、Yamaguti(1958)にあるように、*Metagonimus takahashii* Takahashi, 1929 となり得ます）、現行の規約では、それが回避出来、真の命名者名が示せるわけです。また、影井氏の *Metagonimus takahashii* (Takahashi, 1929) Suzuki, 1930 という意見は、

- 1) 真の命名者が Takahashi に帰する事になり、
- 2) *takahashii* Takahashi, 1929 が最初あたかも *Metagonimus* 以外の属名との組み合わせで、命名されたと言う意味になるし、
- 3) 且つまた、Suzuki(1930) がはじめて *Metagonimus* 属の所属ということを決めたという意味も表現されて来るので、三重の間違いを犯す事になる。（1993-5木船）

[木船裁定の *M. takahashii* Suzuki in Takahashi, 1929 に賛成。  
(1993-5影井、今井、町田)

*Metagonimus yokogawai* (Katsurada, 1912) Katsurada, 1912 横川吸虫

*Opisthorchis viverrini* (Poirier, 1886) Stiles et Hassall, 1896 タイ肝吸虫

[S5委員会、香猫吸虫（*viverra* がジャコウネコであることから）  
[タイ肝吸虫は、1963年寄生虫学会和名表にあり（町田）

*Opisthorchis felineus* (Rivolta, 1884) Blanchard, 1895 ネコ肝吸虫

[s5委員会、ネコ吸虫  
[ネコ肝吸虫

*Paragonimus africanus* Voelker et Vogel, 1965 アフリカ肺吸虫

*Paragonimus heterotremus* Chen et Hsia, 1964 ヒロクチ肺吸虫  
[追加. 人体寄生例あり（タイ、中国）。（影井）

*Paragonimus iloktsuenensis* Chen, 1940 小形大平肺吸虫

*Paragonimus kellicotti* Ward, 1908 ケリコット肺吸虫

*Paragonimus mexicanus* Miyazaki et Ishii, 1968 メキシコ肺吸虫

*Paragonimus miyazakii* Kamo, Nishida, Hatsushika et Tomimura, 1961  
宮崎肺吸虫

*Paragonimus ohirai* Miyazaki, 1939 大平肺吸虫

*Paragonimus skrjabini* Chen, 1959 スクリャビン肺吸虫  
[スクリャビン肺吸虫？  
[ア は小文字か、大文字か？（吉田）  
[小文字使用（木船）

- Paragonimus uterobilateralis* Voelker et Vogel, 1965 フォーゲル肺吸虫
- Paragonimus westermanii* (Kerbert, 1878) Braun, 1899 ウェステルマン肺吸虫  
 [ *P. westermani* を用いるのは間違い. (木船)  
 [Kerbert(1878)の原記載は *P. westermanii* であり, *P. westermani* が  
 広く用いられているのは誤綴りである.  
 木船(1988): ウェステルマン肺吸虫の学名, 福岡大学医学紀  
 要, 15(4), 533-535.
- Pharyngostomum cordatum* (Diesing, 1850) Ciurea, 1922 壺形吸虫  
 [追加. 我が国に広く分布 (影井)
- Plagiorchis muris* Tanabe, 1922 ネズミ吸虫  
 [追加. 人体寄生例あり. (McMullen, 1937; 浅田ら, 1960) (影井)  
 [鼠吸虫, 山下: 新日本動物図鑑, 北隆館 (木船)  
 [ネズミ吸虫, 山下次郎命名 (1992-5吉田)
- Psilorchis hominis* Kifune et Takao, 1973 ヒト裸口吸虫  
 [Kifune T. and Y. Takao (1973): Description of *Psilorchis hominis*  
 sp. Nov. from man (Trematoda: Echinostomatoidea:  
 Psilostomidae). Japn. J. Parasit. 22(3), 111-115.
- Pygidiopsis summa* Onji et Nishio, 1916 前腸異形吸虫  
 [以前に和名を与えられた事あり(木船)  
 [前腸異形吸虫 (木船)  
 [前腸異形吸虫, 人体寄生例あり(横川ら, 1965) (影井)
- Schistosoma haematobium* (Bilharz, 1852) Weinland, 1858 ビルハルツ住  
 血吸虫
- Schistosoma japonicum* (Katsurada, 1904) Stiles, 1905 日本住血吸虫
- Schistosoma malayense* Greer, Ow-Yang et Yong, 1988 マレー住血吸虫
- Schistosoma mansoni* Sambon, 1907 マンソン住血吸虫
- Schistosoma mekongi* Voge, Bruckner et Bruce, 1978 メコン住血吸虫
- Stellantchasmus falcatus* Onji et Nishio, 1915 鎌形異形吸虫  
 [以前に和名を与えられた事あり(木船)  
 [人体寄生例あり.  
 影井ら(1964): 高知県における *Stellantchasmus falcatus*  
 (Family: Heterophyidae) の人体寄生例について, 寄生虫誌,  
 13(6), 472-478.
- Trichobilharzia ocellata* (La Valette, 1855) Brumpt, 1931 和名ナシ
- Trichobilharzia brevis* Basch, 1966 和名ナシ
- Trichobilharzia physellae* (Talbot, 1936) McMullen et Beaver, 1945  
 和名ナシ  
 [ *Schistosoma malayense* は minor な住血吸虫と思えますが, これに和  
 名があつて, 日本でも大変問題となる *Trichobilharzia ocellata*,  
*T. brevis*, *T. physelle* に和名が無いのは何となく奇異に感じる.  
*Anisakis* や *Pseudoterranova* についても同様な感じを受ける.  
 (吉村(堅)1994-4-21)

~~~~ 以上, 吸虫類 47種 ~~~~

◎ [付記]

[委員会に収載を提出したが, 今回の和名表に採用されなかったもの]

吸虫類には該当なし.

<< 条虫類 >>

Bertiella studeri (Blanchard, 1891) Stiles et Hassall, 1902 和名ナ
[追加, 人体寄生例あり収録を (影井)
[猿横管条虫, 岩田: 日本動物分類, 三省堂 (木船)

Bertiella mucronata (Meyner, 1895) Stiles et Hassall, 1902 和名ナ
[追加, 人体寄生例あり収録を (影井)
[*mucronata* は「尖った」の意. (木船)

Diphyllobothrium cameroni Rausch, 1969 カメロン裂頭条虫

Diphyllobothrium cordatum (Leuckart, 1863) Gedoelst, 1949 心形裂頭条虫
[Gedolst? or Gedoelst?
[学名はFaust *et al.* (1929)ニヨル, (Leuckart, 1863) Faust, 1929
[心形裂頭条虫 (岩田, 1938)
[壺形裂頭条虫? (金田)
[グリーンランドでの人体寄生1例あり, 外国の教科書には採用されている
が, 採用については疑問? (加茂)
[重ねて今回の選定では省いた方がよい(加茂)
[心形裂頭条虫を支持する (塚本, 木船)
[和名は岩田(1938)により [心形裂頭条虫] が課せられている(町田)
[S5委員会案でも同じ(町田)
[*Diphyllobothrium cordatum* (Leuckart, 1863) Gedoelst, 1949 が
妥当. Gedolst(1949):Leuckart(1863)が *Bothriocephalus*
cordatus と命名した条虫を, *Diphyllobothrium*属に初めて位置づ
けた.
Delyamure, S. L. (1968):Gel' mintofauna morskikh
mlekopitaishchikh v svete ikh ekologii i filogenii. Akademia
Nauk SSSR,
Moskva. [Helminthofauna of Marine Mammals (ecology and
phylogeny). Edited by Skrijabin, Israel Program for
Scientific Translations, Jerusalem 1968.]
(1994-3-30, 6-15平井, 加茂)
[上記の Delyamure, S. L. (1968) を再点検して, 本文中の図 (2図)
の説明に, *D. cordatum* (Leuckart, 1863) Gedoelst, 1911 とあ
るのに気付き, また, Delyamure のロシア語版も 1911 となっていま
す. 191 が正しいように存じます. なにかの直に訂正頂ければ幸
いです. (1995-6-2平井)

Diphyllobothrium hians (Diesing, 1850) Meggitt, 1924 アザラシ裂頭
条虫
[海豹裂頭条虫?
[アザラシ裂頭条虫 を支持する (加茂, 塚本, 木船)

Diphyllobothrium latum (Linnaeus, 1758) Lohse, 1910 広節裂頭条虫
[*Diphyllobothrium latum* (Linnaeus, 1758) Cobbold, 1858 でなく,
Diphyllobothrium latum (Linnaeus, 1758) Lohse, 1910 が妥当.
(1994-3-30平井, 加茂)
[Linnaeus(1758)が *Taenia lata* と命名した条虫を
*Diphyllobothrium*属の一員として初めて位置づけたのは
Lohse(1910) である.
Cobbold(1858) は type species *Diphyllobothrium*
stemmacephalum Cobbold, 1858 の命名者である.
Delamure, S. L., Skriabin, A. S. and Serdyukov, A. M. (1985):
Diphyllobothriid tapeworm helminths of man, mammals and
birds. Essentials of cestodology Vol. XI, Akademia nauk SSSR,
Izdatel'stvo Nauka, Moscow. (in Russian) (1994-6-5 平井,

加茂)

Diphyllobothrium nihonkaiense Yamane, Kamo, Bylund et Wikgren, 1986

日本海裂頭条虫

[従来永い期間、日本産のものは北欧産の *D. latum* と同一物とされ、日本で患者から得られたものは、全て *D. latum* として取り扱われてきたが、最近になって山根ら(1986)は、日本産のものは、北欧産の *D. latum* とは独立した別種で、*D. nihonkaiense* 日本海裂頭条虫であると報告し、次第に定着しつつある。

一方、北欧産の *D. latum* もそのまま独立種であり、その和名は広節裂頭条虫とされてきたことを考慮し、独立主として別記した。混乱の無いように十分に注意されねばならない。

Yamane Y., H. Kamo, G. Bylund and B. J. P. Wikgren (1986):
Diphyllobothrium nihonkaiense sp. nov. (Cestoda:
Diphyllobothriidae) - revised identification of Japanese
broad tapeworm. Shimane J. Med. Sci., 10, 29-48.

Diphyllobothrium orcini Hatsushika et Shirouzu, 1990 和名ナ

[追加、今後症例が報告される可能性がある。(1994-3-30 平井)

[初記載は、Hatsushika and Shirouzu (1990): A new species of marine tapeworm, *Diphyllobothrium orcini* n. sp. (Cestoda:Pseudophyllidea) found from Killer whale, *Orcinus orca* (Linnaeus, 1758) in Japan. Jpn. J. Parasitol., 39, 566-573.

人体寄生例は、中沢、天野、大島(1992): *Diphyllobothrium orcini* Hatsushika and Shirouzu, 1990 のヒト感染の第一例。寄生虫学雑誌, 41, 306-313. (1994-5-9 平井)

[和名表に [和名ナ] とありますが、初記載の論文を寄生虫誌に投稿した際、和文抄録に(和名として シャチ裂頭条虫 を提唱したい)と記しました。昔は英語論文の場合は、和文抄録が同時に掲載されましたので読者にも解ったのですが、近年は英文論文においては、和文抄録が掲載されませんので、この“シャチ裂頭条虫”が読者には伝わっておりません。御一考下さい。(1995-6-13 初鹿)

[上記の初鹿氏からの申し出については、和名の公表が無かったものと理解し、今回の提案を受けて、将来の訂正作業のみに採用を検討したい。(1995-6-20 用語委)

Diphyllobothrium pacificum (Nybelin, 1931) Margolis, 1956 太平洋裂頭条虫

Diphyllobothrium scoticum (Rennie et Reid, 1912) Meggitt, 1924 スコ
ットランド裂頭条虫 [新名

[追加提案 (加茂), 支持スル(木船)

[日本から人体例 1 例あり(加茂)

Diphyllobothrium yonagoense Yamane, Kamo, Yazaki, Fukumoto et Maejima, 1981
米子裂頭条虫

Diplogonoporus balaenopterae Lönnerberg, 1892 クジラ複殖門条虫

[鯨複殖門条虫?

[*Diplogonoporus balaenopterae* (Lönnerberg, 1891) Lönnerberg, 1892
との記載もあるが、同一命名者の(不満?)訂正の故に *D.*
balaenopterae Lönnerberg, 1892 となるのでは? (加茂)

[信頼すべき文献により Lönnerberg, 1892 として可。(木船)

Diplogonoporus fukuokaensis Kamo et Miyazaki, 1970 福岡複殖門条虫

Diplogonoporus grandis (Blanchard, 1894) Löhle, 1899 大複殖門条虫

[Löhle, 1899 が正しく, Yamaguti, 1959 は間違い。(塚本)

Dipylidium caninum (Linnaeus, 1758) Railliet, 1892 瓜実条虫 (ウリサネシヨ

ウチュウ)

[=イヌ条虫？

[Leuckart, 1863 ?

[Leuckart(1863) が *Dipylidium*属を提唱し、その属の記載文を基に Linnaeus(1758) が *Taenia*の属名で述べていた本種を、

Railliet(1892)が *Dipylidium*属に配する事を論じ記載したので、
Dipylidium caninum (Linnaeus, 1758) Railliet, 1892 とする (影井) ----- 賛成(木船)

[英名 double-pored tapeworm, 病名 dog tapeworm infection なので、イヌ条虫が適当、旧瓜実条虫を付記する。(影井, 塚本)

[瓜実条虫 = (イヌ条虫) とすべき. イヌだけでなく 和にも寄生 (町田)

[イヌ条虫 (= 瓜実条虫) とすべき (小林)

[Syn. *Taenia cucumerina* Bloch, 1782 に由来すると思われるし、
D. cati Neumann, 1896 等も同じく Syn. なので瓜実条虫が適当.
(1993-6神谷)

Echinococcus granulosus (Batsch, 1786) Rudolphi, 1810 単包条虫

Echinococcus multilocularis Leuckart, 1863 多包条虫

Echinococcus oligarthrus (Diesing, 1863) Lohse, 1910 ヤマネコ包条虫 [新名
[新名 (神谷)

Echinococcus vogeli Rausch et Bernstein, 1972 フォーゲル包条虫

◎ [*Echinococcus*属に、16種が報告されていたが、単包条虫と多包条虫に上記2種を加えて、4種に整理され、WHOのガイドラインに採用されている。

[この4種は、いずれも人体寄生例がある。*E. vogeli* は、ロスの動物園のワニから、類人猿に感染した例がある。また、ブラジル帰りの日本人の寄生例あり(報告済み)

[フォーゲル包条虫は、既に採用されている国内の文献がある。

[ヤマネコ包条虫は、*Echinococcus*属、独立種4種の内、唯一終宿主として、和科ヤマネコ類に寄生するもので、適当な和名と思い、提案する。
(神谷)

Hymenolepis diminuta (Rudolphi, 1819) Blanchard, 1891 縮小条虫

Inermicapsifer madagascariensis (Davaine, 1869) Baer, 1956 マダガスカル条虫

Mesocestoides lineatus (Goeze, 1782) Railliet, 1893 有線条虫

[古く、狐中殖条虫(岩田-日本動物分類, 三省堂)がある。「有線」は lineatus に基づく(木船)

[現在は有線条虫が普通に用いられている。(委員会)

Multiceps longihamatus Morishita et Sawada, 1966 長鉤多頭条虫 [新名

[長鉤多頭条虫 (木船, 金田)

[原著を見ましたが、成虫の記載で *Multiceps*属の新種となっているが、Schmidt(1986)の CRC Handbook of Tapeworm identification には、新種の引用が欠落している。Beaver, Jungz Cupp (1984) Clinical Parasitology には、*Multiceps macracantha* に類似しているとの引用がある。将来、*Taenia*属の既知種と synonym になる可能性が有ると思えるが? (1993-6神谷)

[新種としての記載を採用 (1993-8影井, 今井, 町田)

Multiceps multiceps (Leske, 1780) Hall, 1910 多頭条虫

[共尾虫も使われる。

[共尾虫は囊虫を云う、多頭条虫(岩田1938)がよい。(木船)

[幼虫名は、*Coenurus cerebralis* (神谷)

Nybelinia surmenicola Okada, 1929 ニベリン条虫

Raillietina celebensis (Janicki, 1902) Fuhrmann, 1924 セレベス条虫

Sparganum proliferum (Ijima, 1905) Stiles, 1908 芽殖孤虫

[S5委員会：*Sparganum* は *sparganion*(細紐)であるので，*S. proliferum*は「芽殖紐(チュウ)虫」とされている。

[*Sparganum proliferum* (Ijima, 1905) Stiles, 1908と，学名にならって記載するのか？ (佐藤)

[森下委員会では収録していない。理由は？ (佐藤)

[収録の要なし，成虫で収録されている。(木船)

[表の中での記載場所を工夫した方が良くも (佐藤)

[マンソン孤虫 *Sparganum mansoni* を収録するか？ (吉田)

[その他の幼虫寄生のもの，例えば *Cysticercus cellulosae* などを収録するか？ 検討を (影井)

[成虫が確定しているものは収録しなくても良い。(木船)

[幼虫名であるが，成虫が見出されておらず成虫名がないので，学名同様に扱い，イタリックで表し，命名者も上記のように記載する。但し，幼虫寄生のもので成虫名のあるもの，例えば *Sparganum mansoni* や *Cysticercus cellulosae* 等は記載しない (町田, 影井)

[*Sparganum mansoni* や *Cysticercus cellulosae* は幼虫名ではあるが，重要な人体傷害を起こす病因となっているので，採録した方が良い。(小林)

◎ [特記，2] 参照

Spirometra erinaceieuropaei (Rudolphi, 1819) Mueller, 1937 マンソン裂頭条虫

[Synonym *Dibium erinacei-europaei* Rudolphi, 1819

[Synonym *Ligula mansoni* Cobbold, 1882

[Synonym *Bothriocephalus mansoni* (Cobbold, 1882) Blanchard, 1888

[Synonym *Diphyllobothrium mansoni* (Cobbold, 1882) Joyeux, 1928

[Synonym *Diphyllobothrium erinacei* (Rudolphi, 1819) Faust, Campbell et Kellogg, 1929

[Synonym *Spirometra erinacei* (Rudolphi, 1819) Faust, Campbell et Kellogg, 1929

[旧学名をも付記する

[*Spirometra erinaceieuropaei* とハイフンをつけず続けて種小名とする。 *erinacei-europaei* とすると亜種扱いとなる。(木船)

[Schmidt(1986): Handbook of Tapeworm Identification では，*Spirometra* は *Diphyllobothrium* の Syn. としている。(町田, 沢田)

[*Spirometra erinaceieuropaei* (Rudolphi, 1819) Müller, 1937 が妥当。(1994-3-30 平井, 加茂, 1994-6-5内容再確認)

◎Rudolphi(1819)は，ヨーロッパ産のハリネズミ *Erinaceus europaeus* に寄生していた幼裂頭条虫を *Dubium erinacei-europaei* として記載したが，Faust, Campbell and Kellogg(1929) は，中国産ハリネズミ *Erinaceus dealbatus* から見いだした幼虫を，仮に仮に食べさせて成虫を得，Rudolphi(1819)のものと同じ種と考え，*Diphyllobothrium erinacei* (Rudolphi, 1819) Faust, Campbell et Kellogg, 1929 と命名した。この時，種小名のハイフンだけを除くべき処を間違えて，*euroepaei* まで除いてしまったので，そのまま岩田(1933)以降に踏襲され，混乱があった。

また，Faust et al.(1929) は，*Spirometra* を亜属名として与えたが，さらに，Müller(1936) は，属名に格上げすることを提唱し，Müller(1936)において，属の特徴を明記した。

Rudolphi, C. A. (1819): Entozoorum synopsis cui ccendunt mantissa duplex et indices locupletissimi, Berolini.

Müller, J. F. (1937): A repartition of the genus *Diphyllobothrium*. J. Parasitol., 23, 308-310.

岩田正俊(1933):マンソン裂頭条虫 *Diphyllobothrium*

- erinacei* (Rudolphi) 母虫の形態記載. 東京医事新誌, (2813).
[一方, 中国において Manson(1881) により初めて人体寄生が示された幼虫は *Ligula mansoni* Cobbold, 1882 として報告されたが, その後 *Bothriocephalus mansoni* (Cobbold, 1882) Blanchard, 1888 と呼ばれるようになり, 更に Joyeux(1928) により属名は *Diphyllobothrium* と改められ, *Diphyllobothrium mansoni* (Cobbold, 1882) Joyeux, 1928 として記載されて普及した経緯がある. しかし, 本種が *Spirometra erinaceieuropaei* の Synonym であることは岩田(1933, 1962), Yamaguti(1959) などで明らかにされている.
- [Schmidt(1986): Handbook of Tapeworm Identification では, *Spirometra* は *Diphyllobothrium* の Syn. としている(町田・沢田).
- [上記に対しての意見: Schmidt(1986) は Moller(1937) に賛同できない理由を示していない. (1994-6-5平井, 加茂)
- [尚, 愛媛県で採取した *S. erinaceieuropaei* と思われる虫体を Dr. Odening, V. K. (Zoomudium, Berlin) に送付し, ヨロッパ産の *Spirometra erinaceieuropaei* と同一であることが確かめられている. (1994-3-30 平井, 加茂)

[上記の討議を踏まえ, Synonym の指定と, 参考文献を追加して, [選定メモ] の説明を作成した. (1995-1-20 小委員会)

Taenia solium Linnaeus, 1758 有鉤条虫
[幼虫名, *Cysticercus cellulosae* (神谷)

Taenia taeniaeformis (Batsch, 1786) Wolffugel, 1911 ネコ条虫
[Synonym *Hidatigera taeniaeformis* (Batsch, 1786) Lamarck, 1816
[追加. 肥頸条虫のなあり (神谷)
[獣疫関係の寄生虫名は, 原則として, 人体寄生と関係有るものとするのがよい. 但し, 人体に寄生しなくても, 主要な家畜に重要な病害を与える寄生虫に付いては, 代表的なものに限り, 掲載するのが良い. (小林)
[幼虫名, *Strobilocercus fasciolaris* (神谷)

Taeniarhynchus saginatus (Goeze, 1782) Weinland, 1858 無鉤条虫
[Synonym *Taenia saginata* Goeze, 1782
(属の移動)
[hook の無いものを *Taeniarhynchus*属, 有るものを *Taenia*属とする. 東欧の研究者が以前から使用. 岩田(1938), Schmidt(1986) でも採用, 既に 定着している. (加茂, 木船)
[幼虫名, *Cysticercus bovis* (神谷)
[旧学名を, synonym として付記する (塚本)
[近来, 台湾, 韓国, スマトラ で原始的な鉤をもつものが報告されているので, 鉤の原則を再確認の要有り (影井)
[これは *Taenia* として報告されているのか? (塚本)

Vampirolepis nana (von Siebold, 1852) Spasskii, 1954 小形条虫
[Synonym *Hymenolepis nana* (Von Siebold, 1852) Blanchard, 1891

(属の移動)

- [hook の有るものを *Vampirolepis*属, 無いものを *Hymenolepis*属とする. 東欧の研究者が以前から使用, Spasskii(1954), Yamaguti(1959), Schmidt (1986) 等 も採用, 国内でも沢田が使用定着している) (加茂, 木船)
[沢田ら(1984): Zoological Science, Vol. 1, No. 2, 327-331. *Vampirolepis* 属の新種を記載している. (岡本)
[旧学名を, synonym として付記する. (塚本)

--- 以上, 条虫類, 32種---

◎ [付記]

[委員会に収載を提出したが, 今回の和名表に採用されなかったもの, 9種. 次期改訂の折りに追加する.] なお, 幼虫名については, [特記 2] の論議を参照されたい.

Anoplocephala perfoliata (Goeze, 1782) Blanchard, 1848 葉状条虫
[追加. [町田]

Mesocestoides corti Hoeppli, 1925 ネズミ中殖条虫
[新称・追加, 実験材料としてしばしばしよう. [木船, 影井]

Moniezia benedeni (Moniez, 1879) Blanchard, 1891 ベネディン条虫
[追加, 反芻動物の条虫. [町田]

Moniezia expansa (Rudolphi), 1805 拡張条虫
[追加, 反芻動物の条虫. [町田]

Multiceps seriarius (Gervaaalis, 1847) Stiles et Stevenson, 1905 連節条虫
[追加. 幼虫名, *Coenurus serialis* (連節共尾虫) [神谷]

Taenia crassiceps (Zeder, 1800) Rudolphi, 1810 [和名ナシ]
[追加. 幼虫名, *Cysticerucus longicollis* [神谷]

Taenia hydatigena Pallas, 1966 胞状条虫 (辺縁条虫)
[追加. 幼虫名, *Cysticercus tenuiollis* (細頸囊(尾)虫) [神谷]

Taenia ovis (Cobbold, 1869) Ransom, 1913 羊条虫
[追加, 幼虫名, *Cysticercus ovis* (羊(囊)尾虫) [神谷]

Taenia pisiformis (Bloch, 1780) Gmelin, 1790 豆状条虫 (鋸齒条虫)
[追加, 幼虫名, *Cysticercus pisiformis* (豆状(囊)尾虫) [神谷]

[牛 寄 生 例] -----

1. *Diphyllobothrium brauni* Leon, 1907
Diphyllobothrium giljacica Rutkevich, 1937
Diphyllobothrium minus Cholodkovsky, 1916
の3種も人体寄生例があるが, 収録するか? (金田)

[外国の寄生例であり, 2種とも他の種の synonym, 収録の要なし (加茂)
[synonym でないものを確認して収録するのがよい (木船)

2. 他に外国人体寄生例のある *Diphyllobothrium* としては
D. alascense Raush et Williamson, 1958 アラスカ裂頭条虫
D. dalliae Raush, 1956 タリア裂頭条虫
D. dendriticum (Nitzsch, 1824) Lohr, 1910 鋸齒(ノコバ)裂頭条虫
D. lanceolatum (Krabbe, 1865) Meggitt, 1924 槍形裂頭条虫
D. ursi Rausch, 1954 クマ裂頭条虫----- (恐らく *D. nihonkaiense* の synonym ?)
[もし同種なら *D. nihonkaiense* が *D. ursi* の synonym となる. (塚本)
[同意見である. (神谷)
[*D. klebanovskii* Murator et Poskhov, 1988 クレバノフスキー裂頭条虫もあるが,
D. cordatum も含めて, 共に見送った方がよいと思う (加茂)
[上記和名は加茂の提案ニヨル, もっと良い和名を希望 (加茂)

3. *Diplogonoporus brauni* Leon, 1907 の人体寄生例あり (金田)
[外国寄生例で, 他種の synonym と思われ, 収録の要なし (加茂)

4. 人体寄生例が外国でも、この和名表に採録すべきである。原虫類にはそのような例が多数採録されている。(金田, 木船)

[特 記 2] -----

[幼虫名の例]

Multiceps serialis (Gervais, 1847) Stiles et Stevenson, 1905
連節条虫

Taenia hydatigena Pallas 1766 胞状条虫

Taenia ovis (Cobbold, 1869) Ransom, 1913 ヒツジ条虫

Taenia pisiformis (Bloch, 1780) Gmelin 1790 豆状条虫

上記4種条虫の追加の検討をお願いします。(1993-6神谷)

[小委の意見として、重要種でも欠落があっても当然と考えるが、和名委員としての提案であるので、採用には異存はない。(1993-8今井)

[記載範囲を(人体寄生例のあるものと、実験動物の寄生虫の最小限に止める)とした筈。獣医及び水産分野のものは獣医学会、水産(魚病)学会にまかせることに。(1993-8町田)

[人の寄生虫学に寄与する実験動物学との面を考えて、*T. hydatigena* と *T. pisiformis* は加えても良いかと思える。(1993-8影井)

◎ [囊幼虫に関する和名を載せないでよいのでしょうか？

既に一般に通用している名、*Coenurus cerebralis* とか、*Cysticercus bovis* などの和名は今後採用されなくなるのでしょうか？ 小委員会での御意見をお聞かせ下さい。〈memo〉の中にでも幼虫名を載せて置くのは如何でしょうか？ 参考までに、講義で使用している一覧表をお届けします。大林先生にも意見を伺ってみます。(1993-6神谷)

[獣医関係の問題として獣医学会にまかせるのがよい。(1993-8町田)

[獣医領域としては囊虫名は重要で、講義でも重視している。獣医関係は重要種のみとの方針もあるので、親委員会に従う。(1993-8今井)

[メモランダム中に神谷氏の表をアレンジして説明を付して残せば(1993-8影井)

(特記2. として収録した)

--- 以上 ---

<< 線虫類 >>

Anatrichosoma cutaneum (Swift, Boots et Willer, 1922) Chitwood et Smith, 1958 和名ナシ

[追加, 人体寄生あり, 但し森下ら(1956)は *Capillaria* sp. と報告; Freitas (1936); Hoa et al (1963).

Ancylostoma braziliense Gomez de Faria, 1910 ブラジル鉤虫

Ancylostoma caninum (Ercolani, 1859) Hall, 1913 イヌ鉤虫
[犬鉤虫,

Ancylostoma ceylanicum (Looss, 1911) Leiper, 1915 セイロン鉤虫

[Looss は新種名を *Agchylostoma ceylanicum* とし, その後変更の筈(吉田)

[もしそうなら, Looss, 1911 となり, Leiper 以下は不要(木船)

Ancylostoma duodenale (Dubini, 1843) Creplin, 1845 ズビニ鉤虫

Ancylostoma malayanum (Alessandrini, 1905) Lane, 1926 マレー鉤虫

Ancylostoma tubaeforme (Zeder, 1800) Dubini, 1843 ネコ鉤虫 [追加.]

Angiostrongylus cantonensis (Chen, 1935) Dougherty, 1946 広東住血線虫

Angiostrongylus costaricensis Morera et Céspedes, 1971 コスタリカ住血線虫

Angiostrongylus mackerrasae Bhaibulaya, 1968 マッケラス住血線虫 [新名
[Australiaからの *A. mackerrasae* は, Mackerras and Sandars (1955)
により Australia産 *Angiostrongylus* の生活史についての研究の
中で, *A. cantonensis* とは交接刺の大きさが異なるものがある
という報告がなされたのを受けて, その研究所にいた
Bhaibulaya (1968) が彼女 (前者) の名前を種名にし新種として報
告した. 本虫の人体感染例は見つからないし, *Angiostrongylus*
属線虫は他にもたくさんあるので, 無理に載せる必要は無いので
は? (1993-5影井)
Mackerras, M. J. and Sandars, D. F. (1955): The life history of
the rat lungworm, *Angiostrongylus cantonensis* (Chen)
(Nematoda: Metastrongylidae). Aust. J. Zool., 3, 1-21.
Bhaibulaya, M. (1968): A new species of *Angiostrongylus* in an
Australian rat, *Rattus fuscipes*. Parasitol., 58, 789-799.
[和名はおかしくはないか? 或いは不要? (1993-5影井)
[種小名は女性人名, マッケラスとなる? (1993-5今井, 町田)

Angiostrongylus malaysiensis Bhaibulaya et Cross, 1971 マレー住血線虫

[人体症例は, 以下に示す報文 (Lim and Lim *et al.*) 中にあるはず (報文を見ていない). また日本の北九州産ネズミからは以下の Makiya and Sawabe (1992) の昨年暮ちかくにバンコックで行われた International Congressでの発表がある. (神谷, 影井他)
Bhaibulaya, M and J. H. Cross (1971): *Angiostrongylus malaysiensis* (Nematoda: Metastrongylidae). A new species of rat lung-worm from Malaysia. Southeast Asian J. Trop. Med. Public Health., 2(4), 527-533. Makiya, K. and K. Sawabe (1992): Occurrence of *Angiostrongylus malaysiensis* Bhaibulaya & Cross, 1971 in Japan. 13th International Congress for Tropical Medicine and Malaria. Vol. 2, 204.
Lim, B. L. (1976): Eosinophilic meningoencephalitis caused by the rat lungworm, *Angiostrongylus cantonensis* with special reference to *A. malaysiensis* in Malaysia. Medical J. Malaysia. 30(3), 207-211.
Lim, B. L., Yap, L. F., Krishnansamy, M. (1978): Freshwater snail consumption and angiostrongyliasis in Malaya. Tropical and Geographical Medicine, 30(2), 241-246.
Lim, B. L. and Mak, J. W. (1983): Human behavior and zoonotic diseases in Malaysia. In Human ecology and infectious diseases. (Ed. by Croll, N. A., Cross, J. H. 49-72).

Angiostrongylus siamensis Ohbayashi, Kamiya et Bhaibulaya, 1979 タイ住血線虫

[追加. アジア(タイ)から分離し, 完全な独立種です. *A. costaricensis* と同じく, 腸間膜動脈寄生で, 特徴あり. cross breedingにより, 証明されている. Oku *et al.* (1984): J. Parasit., 70, 845-846. (神谷)

Anisakis physeteris Baylis, 1923 和名ナシ

[クジラ回虫の提案
[Yamaguti, Systema Helminth. ニヨル (吉田)

[マッコウクジラ *Physeter macrocephalus* に由来するので(木船)
[Baylis が 1923年に始めて新種として報告 (影井, 木船)

- ◎ [” 蛔 ” の代わりに” 回 ” を用いては? 既に有力な教科書でも採用して10数年が経っている。(全 蛔虫 に共通して考慮) (塚本, 小林)

Anisakis simplex (Rudolphi, 1809) Bailys, 1920 和名ナ
[イルカ海回虫 (多田)
[イルカ アニサキス (高田)
[Rudolphi, 1809 det. Krabbe, 1878) Dujardin, 1845
[det. は =detection? と思えるが, 更に検討する. (影井)
[determine の略では? (塚本)

Anisakis typica (Diesing, 1860) Baylis, 1920 和名ナ
[追加収録し, 和名を *A. simplex* イルカ回虫 と調和させる. (影井)
[Mosgovoi (1953) は上記の如き学名を示している. *Anisakis*属線虫の和名は必要なし. 混乱の元になる. (小委, 町田)
[アニサキス類に和名不要という意見には同意し兼ねる. 成虫が判明し, 学名が安定した時, よく遭遇する種類には和名を付けるべき. (木船)

Ascaris lumbricoides Linnaeus, 1758 回虫

Ascaris lumbricoides suum Goeze, 1782 ブタ回虫
[豚回虫

Aspicularis tetraptera (Nitsch, 1821) Schulz, 1924 ネズミ大腸蟯虫
[追加, 人体寄生例あり [森下, 1957].
森下哲夫(1957): 蟯虫と誤られた希有な人体寄生虫二例, 日本医事新報, 1748, 42-43.
[古く, 四翼蟯虫(吉田・山下-新日本動物図鑑北隆館)があるが, ほとんど使用されていない.
[獣医(例えば獣医臨床寄生虫学(1979), や実験動物(藤原ら, 実験小動物の感染症(1977), では[ネズミ大腸蟯虫]の名がつけられている. *Syphachia obvelata* の[ネズミ盲腸蟯虫]との関係から[ネズミ大腸蟯虫]が良いと思う. (1993-5町田)

Brugia malayi (Brug, 1927) Buckley, 1958 マレー糸状虫

Brugia pahangi (Buckley et Edeson, 1956) Buckley, 1960 パハン糸状虫
[パハン糸状虫, 新名(多田)
[(...Edeson, 1956?) 宮崎一郎, 図説人畜共通ニョル. (吉田)
[1958を -->1956 に訂正 (J. Helm. 30(1) ニョル.
[1960 が正式の paperの年, Ann. Trop. Med. Parasit. 54(1) ニョル.
[パハング糸状虫 または パハング糸状虫ではないか? (影井)
[Pahang は地名, 旧くは Pahan と綴り, 末尾の g は サイレント でしょう. パハンが良いはずです. 現地の発音を確かめて下さい. 地名に -i をつけて種名とするのは余りよくない. しかし, 出来たものは仕方ありません. Vogeの *Schistosoma mekongi* の例あり. (木船)

Capillaria hepatica (Bancroft, 1893) Travassos, 1915 肝毛細虫

Capillaria philippinensis Chitwood, Velesquez et Salazar, 1968 フィリピン毛細虫
[一部に毛頭虫が用いられているが, *Trichuris* の以前の学名 *Trichocephalus* に起因するものと思われる. 形態からも”毛細虫”の方が適している. 一部に毛細線虫の使用例(新日本動物図鑑, 北隆館)もある.

- Diectophyma renale* (Goeze, 1782) Stiles, 1901 腎虫
 [アメリカでは *Diectophyma*, その他では *Diectophyme*, CIH keys も *Diectophyme* ---CHI?の意味不明 (佐藤)(1993-6神谷)
 [CIH Keys to the Nematode Parasites of Vertebrates. edited by R. C. Anderson *et al.* CAB
 [外国の text を2-3見たが, すべて *Diectophyma* である. (1993-8小委) Craig and Faust's Clinical Parasitology. Parasitology in Focus. edited by H. Mehlhorn.
 [Karmanova(1968)を参照のこと. (1993-8小委)
 [原記載 (Collet-Meygret, 1802, J. Physiol. 55, 458-464) はフランス語で *Diectophyme* と書かれているものと思われるが, その後, 分類命名規約に従い, 語尾が修正され *Diectophyma* となったようです. 単純に文法的修正なので, 後者が正しい.
 (J. Parasitol. 27, 280-282, 1941) (1993-8小委)
 [文献は, Harwood, P. D., B. G. Chitwood and A. McIntosh (1941): The status of *Diectophyma*, *Diectophyme*, and *Eustrongylus*. J. Parasit., 27, 280-282.
- Dirofilaria immitis* (Leidy, 1856) Railliet et Henry, 1911 イヌ糸状虫
 [S5委員会, 剛強糸状虫,
 [犬糸状虫
- Dirofilaria repens* Railliet et Henry, 1911 和名ナシ
 [追加, 人体寄生例 (日本) あり.
 [イヌ皮下糸状虫 (影井)
- Dirofilaria tenuis* Chandler, 1942 和名ナシ
 [追加, 人体寄生 (米国) あり.
 [アライグマ糸状虫 (影井)
- Dracunculus medinensis* (Linnaeus, 1758) Gallandat, 1773 メジナ虫
- Enterobius gregorii* Hugot, 1983 和名ナシ
 [追加, 人体寄生例 (日本, 沖縄) (Hasegawa *et al.*, 1991), (影井)
- Enterobius vermicularis* (Linnaeus, 1758) Leach, 1853 蟯虫
- Gnathostoma doloresi* Tubangui, 1925 ドロレス顎口虫
- Gnathostoma hispidum* Fedtschenko, 1872 剛棘顎口虫
 [S5委員会, 剛棘線虫
- Gnathostoma nipponicum* Yamaguti, 1941 日本顎口虫
- Gnathostoma spinigerum* Owen, 1836 有棘顎口虫
 [S5委員会, 有棘線虫
- Gongylonema pulchrum* Molin, 1857 美麗食道虫
 [追加. 山下: 新日本動物図鑑, 北隆館, にある.
- Halicephalobus deletrix* (Anderson et Bemrick, 1965) Andrassy, 1973
 和名ナシ
 [Synonym *Micronema deletrix* Anderson et Bemrick, 1965]
 [追加: 馬の脳内寄生であるが, 人感染例 (meningitis) あり. 収録を (影井)
 [*Halicephalobus deletrix* sensu Jacobs, 1986 今のところ *Micronema* 属が良いと思いますが, 米国では *Halicephalobus* 属に入れる文献がある. sensu で示して置きます. D. E. Jacobs (1986); A colour atlas of equine parasites, Lea & Febiger, Philadelphia. に *Halicephalobus* で採用されている.
 [初記載は, Anderson & Bemrick (1965): *Micronema deletrix* n. sp.,

A Saprophagous nematode inhabiting a nasal tumor of a horse .
Proc. Hel. Soc. Wash., 32, 74-75.

[人体寄生例は, Beaver *et al.* (1988). Clin. Parasitol., にも採用され, 重要なものと思えます.

[最初 Anderson and Bemrick (1965) により馬寄生の本虫に新種記載がなされた. *Micronema*属は Korner (1954) によってドイツの枯れた木の根から回収された虫体につけた *Micronema minutum* や *M. parvum* の命名の際に新属が樹立されたのであるが, Timm (1956) は Korner の属を知らないで, バングラデシュのベンガル湾の淡水に住む king crabs の足の基部に見出された虫体に対して新属 *Halicephalobus* を設立した. しかし, その後 Andrassy (1973) は確かに此の属は同じ属に属するが, *Micronema* の属名は既に魚類につけられている (Blecker, 1858) 事を指摘し, 既に報告されていた *Micronema* spp. の8種を全て *Halicephalobus* 属に入れることを提唱し, その後の英国系の論文, CAB などではこの属が採用され認められている. その他の地域では混同があるとは思えるが, 将来的には統一される筈. 本属には 8種あり, *H. deletrix* を除き全て free-living か死物寄生の線虫である.

[この経過であれば, *Halicephalobus deletrix* (Anderson et Bemrick, 1965) Andrassy, 1973 とすべきでは. (木船)

Lagochilascaris minor Leiper, 1909 和名ナシ

[追加, 人体寄生例あり. アライグマ回虫 (影井)

[S5委員会, 小回虫.

Loa loa (Cobbold, 1864) Castelani et Chalmers, 1913 ロア糸状虫

Mammomonogamus auris (Faust et Tang, 1934) Ryjikov, 1948 ネコ耳開嘴虫
(ネコミカイシチュウ)

[追加, 中国と日本の2-3地区のネコに感染をみている.

Mammomonogamus laryngeus (Railliet, 1899) Ryjikov, 1948 和名ナシ

[追加, 人体寄生例あり, 日本にも存在する.

[牛食道虫? (町田)

Mansonella ozzardi (Manson, 1897) Faust, 1929 オザード糸状虫

[オザルト糸状虫 では? (影井)

[Ozzardの国籍は英領カテナの人の様ですから オザルトがよい? (塚本).

[s5委員会案では, "オザルト糸状虫"

Mansonella perstans (Manson, 1891) Orhriel et Eberhard, 1982 常在
糸状虫

[Synonym *Acanthocheilonema perstans* Manson, 1891

Mansonella streptocerca (Macfie et Corson, 1922) Faust, 1949 和名ナシ

[追加. (影井)

◎ *Mansonella* 属について:

[古くより, *Acanthocheilonema* 属が使われていたが, 現在は *Mansonella* が使用されている. その正当性について

Parasithology Today に記載あり. Muller, R. (1987): A *Dipetalonema* by any other name. Parasitology Today, 3(12), 258.
(影井)

Metastrongylus elongatus (Dujardin, 1846) Railliet et Henry, 1911

ブタ肺虫

[豚肺虫.

[*Metastrongylus apri* (Gmelin, 1790) Vostokov, 1905 では? ('93-6 神谷)

[獣医界では現実に両者が用いられているが, *M. apri* の種小名の命名者 Gmelin の原記載は見えないが, ごく簡単な *Ascaris apri* との記載だけがあるようで, 後世の学者の多くがこれをブタ肺虫の

原記載とは認めていないようだ。(Yorke & Maplestone, Yamaguti, Soulsby etc.) (1993-8小委)
[*Metastrongylus apri* (Gmelin, 1790) Vostokov, 1905 or Railliet et Henry, 1907 のいずれか明確でない。
= *M. elongatus* (Dujardin, 1846) Railliet et Henry, 1911 (1993-8小委)

- Necator americanus* (Stiles, 1902) Stiles, 1906 アメリカ鉤虫
- Oesophagostomum bifurcum* Creplin, 1849 和名ナシ
[追加, 人体寄生例あり, アフリカでは流行も見られる.]
- Oesophagostomum dentatum* (Rudolphi, 1803) Molin, 1861 ブタ腸結節虫
[追加,
- Oesophagostomum stephanostomum* Stossich, 1904 和名ナシ
[追加, S5委員会案に冠口線虫の和名がある。
[ブラジルでの人体寄生例あり
- Onchocerca cervicalis* Railliet et Henry, 1910 頸部糸状虫
[Yamaguti:Syst.Helm. ニヨル (木船)
- Onchocerca gutturosa* Neumann, 1910 咽頭糸状虫
[Yamaguti:Syst.Helm. ニヨル (吉田)
- Onchocerca volvulus* (Leuckart, 1893) Railliet et Henry, 1910 回旋糸状虫
- Passalurus ambiguus* (Rudolphi, 1819) Dujardin, 1845 ウサギ蟻虫
[追加, 近年, 感染ウサギの多発を見る.]
- Philometroides cyprini* (Ishii, 1931) Nakajima, 1970 コイ糸状虫
[追加 (町田)
- Philometroides seriolae* (Ishii, 1931) Yamaguti, 1935 ブリ糸状虫
[追加 (町田)
- Physaloptera caucasica* von Linstow, 1902 コーカサス線虫
[追加, 和名は, S5委員会の カカサス がある。
[コーカサスフィソプロテラ
- Pseudoterranova decipiens* (Krabbe, 1878) Gibson et Colin, 1982 和名ナシ
[アザラシ海回虫の提案
[鰭脚類寄生なので, 和名を アザラシ回虫 or アカ回虫 or トト回虫, とするか? (影井)
[追加, 和名は不要 (町田)
Gibson, D.I. and J.A. Colin (1982): The *Terranova* Enigma. Parasitology, 85,
- Rhabditis debilicauda* Fuchs, 1937 尾久線虫
[追加, 林ら(1958)の尿中から報告, 和名は魚谷(1960)が命名した。
林滋生ら(1958): ラブジチス類による尿線虫症の集団発生例について, 寄生虫誌, 7(6), 641-645.
魚谷和彦(1960): 人尿中に見出された尾久線虫の研究, 寄生虫誌, 9(3), 322-344.
- Rhabditis elongata* Schneider, 1866 和名ナシ
[追加, 人体寄生例あり (田中, 1935) (影井)
- Rhabditis hominis* Kobayashi, 1914 ヒト桿線虫

[追加, 和名は, S5委員会案に人桿虫, s8和名表に桿線虫属がある.
[ト桿虫 (木船)

- Rhabditis inermis* Schneider, 1866 和名ナシ
[追加, 流産患者の胎盤より岡部(1954)報告. (影井)
- Strongyloides fuelleborni* von Linstow, 1905 サル糞線虫
[サル糞線虫 [= 猿糞線虫] に賛成(塚本, 影井)
[*fuelleborni* とし □ は用いない.
[ヒューレボン糞線虫? (吉田)
- Strongyloides planiceps* Rogers, 1943 ネコ糞線虫
[追加,
- Strongyloides ransomi* Schwartz & Alicata, 1930 ブタ糞線虫
[追加,
- Strongyloides ratti* Sandground, 1925 ネズミ糞線虫
[Yamaguti: Syst. Helm. ニヨル (吉田)
- Strongyloides stercoralis* (Bavay, 1876) Stiles et Hassall, 1902 糞線虫
- Syphacia obvelata* (Rudolphi, 1802) Seurat, 1916 ネズミ盲腸蟯虫
[追加, 人体寄生例アリ. 赤木(1925), Yorke, W. & P.A. Mapleston (1926)
[古く, 頭膜蟯虫 (吉田・山下-新日本動物図鑑, 北隆館) がある.
- Syphacia muris* (Yamaguti, 1935) Yamaguti, 1941 和名ナシ
[追加, 人体寄生例あり. 和名ナシ
[ネズミの蟯虫であるので, *Syphacia obvelata* との関係で, 再考が必要?
- Thelazia californiensis* Price, 1930 カリフォルニア眼虫
[Yamaguti, Systema Helminthum ニヨル (木船, 吉田)
[Kofoid et Williams, 1935? Beaver, Clinic. Parasit. 9th edition
にあり (吉田)
- Thelazia callipaeda* Railliet et Henry, 1910 東洋眼虫
- Ternidens deminutus* Railliet et Henry, 1909 縮小線虫
[追加, 和名は S5委員会案による. 人体寄生例あり(アフリカ)
- Toxocara canis* (Werner, 1782) Johnston, 1916 イヌ回虫
- Toxocara cati* (Schränk, 1788) Brumpt, 1927 ネコ回虫
- Trichinella spiralis* (Owen, 1835) Railliet, 1895 旋毛虫
- Trichostrongylus axei* (Cobbold, 1878) Railliet et Henry, 1909 和名ナシ
[追加, 人体寄生例あり.
- Trichostrongylus orientalis* Jimbo, 1913 東洋毛様線虫
- Trichuris muris* (Schränk, 1788) Hall, 1916 ネズミ鞭虫
[追加, 実験材料として重要.
- Trichuris trichiura* (Linnaeus, 1771) Stiles, 1901 鞭虫
- Trichuris vulpis* (Froelich, 1789) Smith, 1908 イヌ鞭虫
[新名 (塚本), 獣医学関係では, イヌ鞭虫を使用している.
[人体寄生例あり. 収載のこと (影井)

Wuchereria bancrofti (Cobbold, 1877) Seurat, 1921 バンクロフト糸状虫

〜〜以上 線虫類 78種〜〜

◎ [付記]

[委員会に収載を提出したが, 今回の和名表に採用されなかったもの, 4種. 次期改訂の折りに追加する.]

Dictyocaulus viviparus (Bloch, 1782) Railliet et Henry, 1907 ウシ肺虫
[追加.]

Setaria digitata von Linstow, 1906 指状糸状虫
[追加, 腰麻痺の原因となる. [影井]

Strongyloides papillosus (Wedl, 1856) Ransom, 1911 乳頭糞線虫
[垂下, 最近日本におけるトク(牛)の突然死の原因として重要 [影井]

Toxascaris leonina (von Linstow, 1902) Leiper, 1907 豚小回虫
[追加, 輸入後土着した. [影井]

<< 線形虫類 >>

◎日本におけるこの仲間の人体からの吐出例・排出例は全て *Gordius* sp. と同定されているので(影井, 1977), 日本における代表種として以下の2種を挙げるに止める.

Gordius ogatai Inoue, 1979 オガタハリガネムシ
[新名]

Chordodes japonensis Inoue, 1952 ニホンザラハリガネムシ
[Inoue, 1959 or Inoue, 1952 ?? 再調査を.
[影井昇(1878):ハリガネムシ (*Gordioidea*: *Nematomorpha*) の人体感染に関する考察, 公衆衛生院研究報告, 26(1), 14-18.
[Inoue, 1959 -> Inoue, 1952 (1993-5今井)]

◎ [付記]

[委員会に収載を提出したが, 今回の和名表に採用されなかったもの, 2種. 次期改訂の折りに追加する.]

Gordius robustus Leidy, 1851 鉄線虫
[追加, [影井]

Pseudogordius tanganykae Yeh et Jordan, 1957 タンガニカ擬鉄線虫
[追加, [影井]

<< 鉤頭虫類 >>

Macracanthorhynchus hirudinaceus (Pallas, 1781) Travassos, 1917 大鉤頭虫

[蛭状鉤頭虫
[大鉤頭虫 各種テキストブックに, 大鉤頭虫となっている.
[新日本動物図鑑(北隆館)にも.
[Beaver et al. (1984): Clinical Parasitology (9th ed.)には The giant leech-like acanthocephalan となっている.
[俗名から大鉤頭虫として, 将来他種 (*M. catalinum*, *M. ingens*等の和名を採用するときに, ○○大鉤頭虫としては? (神谷)
[動物図鑑, などに採用されている[大鉤頭虫]を採用するのが良い.]

(小委)

- ◎ [和名は種名からきている蛭状鉤頭虫よりも、通常に用いられ、また動物図鑑にも所載されている大鉤頭虫の方を採用する。形態的にもこの名前の方が適している。]

Moniliformis moniliformis (Bremser, 1811) Travassos, 1915 鎖状鉤頭虫
[Synonym *Moniliformis dubius* Meyer, 1932
[*Moniliformis dubius* Meyer, 1932 擬鎖状鉤頭虫との関係は? Amin
(1985)によれば *M. moniliformis* の Syn. とある。
[尚、検討の余地あり。(町田)

<< 虫至 類頁 >>

Dinobdella ferox (Blanchard, 1896) ハナビル
Haemadipsa japonica Whitman, 1886 ヤマビル
Hirudo medicinalis Linnaeus, 1758 医用ビル
Hirudo nipponia Whitman, 1866 チスイビル

[あとがき]

本 [委員会討議録] の編集には、当初から各委員から提出される資料や、会員からの意見などをパソコンに入力して、極力散逸しないように配慮した積もりではあるが、最終的な編集には影井委員を始め小委員会の各位の絶大なご努力により、纏めることが出来た。

その最終点検の中で、

1. 委員会の討議の中で採用することで合意していた筈が原稿から漏れた、下記の吸虫 2種のあること。

Centrocestus armatus (Tanabe, 1922) Price, 1932 和名ナ
[人体寄生あり]

Centrocestus formosanus (Nishigori, 1924) Price, 1932 和名ナ
[人体寄生あり]

2. 委員会に採用を提案されたが、取り上げられなかったもの(原虫, 8種; 条虫, 9種; 線虫, 4種; 線形虫, 2種)についての記載を追記すべきこと。

の2点を、本討議録に明記すべきことに気付き、該当個所に纏めて追記し、次期 [和名表] の改定時に追加登録することで対処した。

本委員会は、昭和63年に改組、新委員会として発足し、用語集の整理・再刊と、和名選定作業とが最大の使命であった。ここに約8年間を費やして、両者を締めくくる事が出来た事に深い感慨を抱くとともに、終始御協力を頂いた用語委員会諸先生並びに会員の諸氏に厚く御礼を申し上げる。

和名選定委員会討議録
平成 7年 8月 31日 製本
日本寄生虫学会用語委員会